

発表サマリー

「Emirati Perspectives on Iranian Culture: A Journey of Rediscovery」

報告者：後藤真実（GOTO, Manami）

秋田大学国際資源学研究科助教

1. 報告概要

近年、アラブ首長国連邦において、イラン革命以降イラン系移民への社会政治的圧力により、消失または制限されてきたイラン系伝統文化が、イラン系若年層移民女性たちによって復活・復興されている動きがある。本報告では、アラブ首長国連邦におけるイラン系移民の移住の歴史や、イラン系移民への社会的風潮の変遷の背景とともに、イラン系若年層移民女性3名の事例を用いて、彼女たちのイラン系アイデンティティを象徴する伝統文化の復興・継承の動機や取り組みへの考察の結果を発表した。考察の結果として、次の3点を挙げた。①イラン系若年層移民女性たちは、UAE人であるというアイデンティティを第一と考えているものの、「イラン系」というアイデンティティも共存するという、多元的アイデンティティを受容している。②アラブ首長国連邦では既に消滅しているイラン系伝統文化については、隣国のオマーンやバハレーンなどからイラン系人的ネットワークを用いてモノや技術を輸入することで復活・復興しようとする動きがある。③しかしながら、若年層女性の中には、イラン系移民としてのアイデンティティ表象のためにイラン系伝統文化を復興したいという思いがありながらも、自身や親族が政府系機関に勤めている場合、社会的なリスクを恐れ実行に移さない人々がいる。

2. 質疑応答・意見交換

本研究会は全て英語で行われたため、英国エクセター大学からも研究者と修士課程の学生の計3名が参加するなど、国内外の分野の異なる湾岸地域研究者や中東研究者から様々な視点で活発な質疑応答が行われた。2人の報告者の共通点としての「モビリティ（人と社会の流動性・移動性）」の概念が、湾岸地域においては土地と人の関わりあいや、異なる時代の統治者・主権国家との関係でどのように変わり得るのかという議論や、イラン系移民の民族的アイデンティティについて、イランとアラブ首長国連邦国内での位置づけについての質問がなされた。また、アラブ首長国連邦におけるイラン系移民への社会的圧力の歴史が、日本における在日朝鮮人への圧力の歴史と似ているという指摘もあり、今後は比較研究の可能性も含め、本発表で得られた知見を本研究の発展に活かしていきたい。